

スタッフ紹介

Interview

～「裕子さん」の巻～

「氣道のスタッフ」をもっと知りた〜い☆☆コーナーです☆☆

インタビュアー：太郎



3児の母親で
家業を手伝いながら、
整体を学び、
お産の活動をされる、
体は小さいけど、
パワフルで大胆な
中野裕子さん。

芦屋道場でも
お母ちゃん的存在であります。

● 出身は？

大阪市の住吉区です。すぐくのんびりしたところで生まれました。

● お気に入りの場所は？

海・山・川です。休日はそういったところで過ごしますね。特に好きなのは南の島。ここ最近、夏は奄美に行っています。

● 好きなことは？

「家事」です。自分のペースで自分の好きなようにできる「家事」の時間はとても大切ですね。あと、「お昼寝」も。いつもクルクルと動いてるのですが、15分ほどのお昼寝タイムは至福のひと時です。それと、家族が寝静まった後の独りの時間が、子供と過ごす時間と同じくらい宝物です。

● 裕子さんの生い立ちは？

小学校低学年まで、学校では一切、口を利かない子供でした。『緘黙（かんもく）』って症状名がつくぐらい。文章を書くのが好きで、毎日大学ノート1ページ分くらい日記を書いていました。

小学校3年生が私のターニングポイントでしたね。なぜか急にリーダーシップをとるようになって。（この時が、芦屋道場のお母ちゃんの原点なんですね？）

はい、そうですね。仕切りたがりになって、中学校では生徒会などもしました。

高校では私立の女子校に進学したんですけど、女子だけの環境は私にはあまり向いてなかったみたいです。大学では、心理学科に進学して、ろくに勉強しなかった代わりに、たくさん社会勉強をすることができて、ホント大切な4年間でした。

その後、大阪の水族館に就職しました。そこで、旦那と出会いました。

（あのイラン人の旦那さんですよ？）

いえいえ、スペイン人風の日本人です！

3年間仕事した後、昔からしたかった留学のために、ニュージーランドへ行きました。

（旦那さん、裕子さんが留学して寂しかったでしょう？）

留学している間、彼、雑誌2冊と漫画を毎月送ってくれたんですよ。

（優しい旦那さんですね）

昔から、私のこと、めっちゃ好きなんですよ。

私は、昔から思ったことはすぐに行動する人なんで。留学もそうですけど、彼に告白したのも、プロポーズしたのも、全部 私からです。「あっ！言ってもうた」って感じで（笑）

● 氣道との出会いは？

結婚後、カウンセリングを学び始め、自分の問題に向き合うようになりました。私は頭をよく使ってしまう人なので、カウンセリングでは、グルグルとメビウスの輪の中に入っちゃうんですよ。私の感情が解放されたのは、ボディワークを受けた時で。どこかの深層筋に触れられたときに、ホント、心の奥に押し込めてた感情の蓋がパカン！と開いた感じになって、滝のような涙が流れたんですね。その時に、身体ってスゴ〜イ！って思いましたね。そんな時、奥谷まゆみ先生の本に、氣道が紹介されていて、そこで初めて知りました。

そこで、珠利先生の整体法1年コースに参加したのですが、私にとってすごく勇気のいる決断でしたね。当時の私には、芦屋は心理的に遠かったし、子供たちが幼い時期に新しいことを始める罪悪感もあって。その1年コースはすごく楽しくて、整体の奥深さを知るとともに、妊婦さんへの援助に対する夢を描けるようになりました。

● 浄潤先生の第一印象は？

私って、自分のド真ん中の物に会うと、敢えて気づかないフリをする癖があるんですよ。

浄潤先生の講座に初めて出た時「この人、スゴイ！」って好きになったけど、気づかないフリをしちゃいました。2回目、講座に出た時に、友達から「裕子ちゃんのだ真ん中やね」って言われて、「あ！私、好きなんだ」って初めて気づきました。

● 裕子さんにとって、氣道協会とは？

浄潤先生はもちろん珠利先生、太郎さん、本部スタッフの方とは、つくづくご縁だなあとと思います。漫画の宇宙兄弟で「ああ、ここにいたんだ、宇宙の話ができる仲間が…」というセリフがあるんですけど、私は小さい頃から、「いのち」や「死」について考えてきた人だったので、氣道に会って「ああ、ここにいたんだ、こういうことを話できる仲間が…」って感じます。それが、私にとって氣道協会という場であり、仲間です。

● スタッフになったきっかけは？

自然な流れで自分のやりたいことをしていたら、スタッフになってたって感じですね。今後についても一事が万事、自然な流れに任せたいと思っています。つながっていくご縁を大事に、自分ができることで、喜んで頂けることか形になっていったら良いなって思います。

● 裕子さんは、妊婦さんを支援する活動もされているんですよね？

お産について、他人から「体がちっちゃいから、帝王切開なら産めるよ」って言われてきて、「帝王

切開、嫌や〜！」って思って、一人目を妊娠する前から、お産の自助グループに参加するようになりました。そこで現代のお産には、医療が過剰に介入しているという事実を知ったんです。このあたりから、お産が人生の大きなテーマになりましたね。

私は、妊娠前は文明の利器に浸りきってるのに、なぜか妊娠を機に、野性が目覚めるスイッチが「カチッ」てウマク入って、一人目のお産からスゴイ幸せなお産をすることが出来ました。一人目・二人目のお産は助産院で自然出産を行い、三人目は自宅で出産しました。特に野口整体とか、知らなかったけど、妊娠中はほんとに不安もなく。当然のようにお散歩して、話しかけて。好きなもの食べて。コッテリしたラーメンが大好きでした。

初めてのお産は痛かったし、「どうなるの？私い〜」って怖かったけど。陣痛の波を受け入れた時に「ああ〜自然の一部なんやなあ〜、私」って思えた。「お産は至高体験」って大袈裟ですけど、ホントそう思っています。一人目のお産後半年ぐらいしてから、妊婦さんを支援する活動を始めました。



● 会員の皆さまに向けて

スタッフとして私は、慌ただしい生活の中で、絶えることなく愉氣をしつづけることを一番大切にしています。私は、主婦であり、子育てをしているお母さんですので、生活者としての目線で、皆さまに寄り添い、ご指導できると思います。

また女性にとって、お産は自分を好きになる好機だと思います。でも、それを活かしてない妊婦さんが多いと思うので、「妊婦であるというだけで完璧！」ってことに気づいてもらえるように援助していきたいです。

 現在、温熱療法・穴迫いの指導を行っております。
 ご予約は随時承っておりますので、どうぞご活用くださいませ。
